

第2学年 道徳科学習指導案

令和元年6月18日（火） 第5校時

1 主題名 素直に伸び伸びと 内容項目 [A 正直・誠実]

2 ねらい 嘘をついてしまう時の気持ちについて話し合う活動を通して、嘘をついたりごまかしたりすることなく、正直に生活することのよさに気づき、素直に伸び伸びと生活しようとする態度を育てる。

教材名 「子だぬきポン」 (出典：「みんなのどうとく 2年」 学研教育みらい)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、低学年の内容項目A「主として自分自身に関すること」の〔正直・誠実〕「うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること」をねらいとしている。これは、第3学年及び4学年の内容項目〔A 正直・誠実〕「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること」につながり、さらに第5学年及び第6学年の内容項目〔A 正直・誠実〕「誠実に、明るい心で生活すること」へと発展していく。

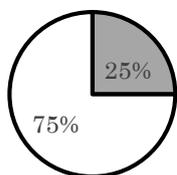
本指導内容は、偽りなく真面目に真心を込めて、明るい心で楽しく生活することに関するものである。第1学年及び第2学年の段階においては、他者から叱られたり笑われたりすることから逃げようとして、うそやごまかしをして暗い気持ちになることがある。いけないことをしてしまったときには、素直にその非を認めて謝るとともに、人の失敗を責めたり笑ったりしないようにし、正直で素直に伸び伸びと生活できる態度を養うことが大切である。

人は誰も自分のことを他人からよく見られたいとか自慢したいなどと考え、深く考えず軽い気持ちでうそをつくことがある。さらに、いつの間にかうそをつくことを悪いことだと感じなくなり、繰り返してしまうことがある。そして、人からの信頼を失い、自分の中に後悔の念を抱く。それらを乗り越えようとするのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さである。また、自己肯定感を高めることで、うそをつく必要のない態度を育てられると考えられる。素直に伸び伸びと過ごそうとする明るさを育てていくことが重要である。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級は、明るく元気でとても素直な児童が多い。うそをついたりごまかしたりしてはいけないことは理解しており、行動も概ねできている。しかし、周りの友達や大人に注意されても、うそをついたことをなかなか認められない場面も見られる。特に、人と比べて優れているように見せたい気持ちを持ち、思わずうそをつくことがある。そこで、うそをついたりごまかしをしたりしないで、明るい心で楽しく生活することのよさや大切さに気付くことができるようになり、また、人としての強さや明るさを身に付けることができるように指導することが大切である。

今までに、ついうそをついたり、ごまかしてしまっことはありますか



■はい □いいえ

「はい」と答えた児童の記述

- ・立ち幅跳びで負けたくなくて、友達よりも多い数を言ってしまった。
- ・鉛筆を削っていないのに、お母さんにもう削ったよと言ってしまった。

本主題を取り上げるにあたり、事前にアンケートを実施した。「今までに、ついうそをついたり、ごまかしたりしてしまったことはありますか。」という質問に対して、はいと答えた児童は5人、いいえと答えた児童は15人であった。

「はい」と答えた児童に具体的なエピソードを聞いたところ、「立ち幅跳びで負けたくなくて、友達よりも多い数を言ってしまった。」「鉛筆を削っていないのに、お母さんにもう削ったよと言ってしまった。」という記述があった。不利な立場に立たされたり、自分自身が責められたりすることを回避しようとして、うそを言ったり、ごまかしをしたりする児童がいることが分かった。また、「いいえ」の回答数の多さから、自分をよく見せたいと思っていたり、うそをついている自覚がなかったりする児童が多くいることが分かった。

本教材を通して、自己の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けようとする態度を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公の子だぬきのうそをつく態度について考えることを通して、ねらいに迫るものである。子だぬきのポンが、様々なうそをつき、ばれそうになると、おなかが痛くなったと言い逃れをする。それを心配した友達が家まで送ってくれる。友達にロボットを見せてほしいと言われ、うそがばれそうになり、子だぬきのポンが泣き出す内容の紙芝居形式の教材である。

本教材を通して、子だぬきポンがついたうその内容やうそをつく理由に共感させ、追い込まれてうそがばれそうになる場面で子だぬきポンに注意するだけでなく、正直に話すよさにも触れ、ねらいに迫っていきたい。

そこで、話し合いや役割演技において、主に次のように教材を活用する。

- ①ついうそをついてしまう心情を考えさせる。主人公ポンくんの行動は、児童の実態から共感しやすいため、場面ごとの行動や気持ちに十分に共感させる。その上で、うそはいけないと分かっているにもかかわらずうそをついてしまうのかを考えさせる。
- ②うそがばれそうになって泣き出すポンくんへの声掛けを通して、注意するだけでなく、これから気付かせたいと考えている内容を広げる。後悔や自責の念をもたず、伸び伸びと生活することのよさを考えさせる。
- ③役割演技で考えた友達からの声掛けによって、ポンくんの気持ちがどう変わったか考えさせる。うそをつかず正直に生活することのよさについて多様に考え、伸び伸びと生活する態度を育てたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

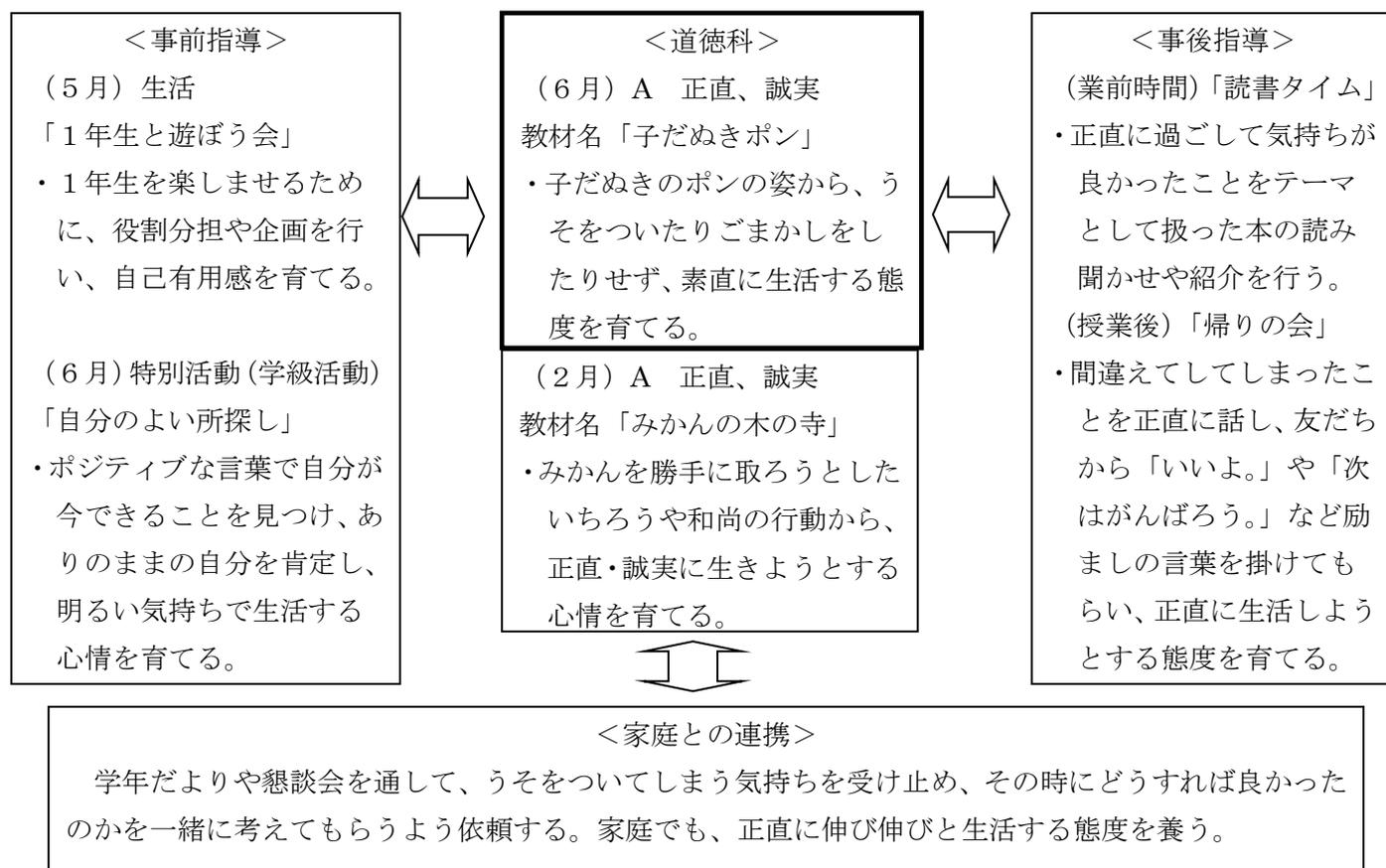
4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	1 生活を見つめ、これまでの経験を想起する。 ・今までについうそをついたりごまかしたりしてしまったことはありますか。 (アンケート結果の提示) ・うそはよくないことなのに、なぜうそをつきたくなってしまったのでしょうか。	・賞状が欲しくて、朝マラソンの数を走った周より多く友達に話したことがある。 ・お母さんに褒められたくて、「宿題をやった」とうそをついてことがある。 ・先生や友達に褒められたくて、硬筆のお手本をなぞって自分の作品にしたことがある。	・うそをついた経験は誰にでもあることや、それでもうそについてはいけないことを確認することで、価値への導入を図る。	3
展開	なぜ うそをついてしまうのか かんがえよう。		・紙芝居形式で提示し、子だぬきポンの気持ちを想像させな	10

<p>2 「子だぬきポン」を聞いて考え、話し合う。</p> <p>(1) 友達にうそをつき続けるポンくんの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポンくんがうそをついた時の気持ちを考えましょう。 <p>(2) うそがばれそうになる場面で主人公がこの後どうするかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポンくんは、この後どうすると思いますか。 <p>(3) 泣き出すポンくんにどんな声掛けをするか考える。</p> <p>【役割演技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしてポンくんは泣いてしまったのだろう。 ・泣いているポンくんに何を話してあげますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かっこいいところを見せたい。 ・友達に負けたくないな。 ・うらやましいと思われたいな。 ・うそがばれるから、かくしちゃう。 ・本当はうそを言いたくないな。 <p>⇕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うそをつき続けてしまうかもしれない。 ・本当のことをちゃんと話して、謝ると思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・うそをついたから泣いたのかな。 ・ごめんは言えたかな。 <ul style="list-style-type: none"> ・うそはいけないよ。 ・ごめんって言ったから許してあげる。 ・正直に言ってくれてありがとう。 ・うそなんかつかなくていいんだよ。 	<p>がら読み聞かせ、主人公の気持ちに共感させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虚栄心からついたうそやごまかしで自慢したところで、どんどん苦しくなり、本当は気持ちよくないことに気付かせる。 <p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うそがばれそうになる場面で一度止め、この後のポンくんの行動を、グループでさらにいろいろな見方で気持ちを考えさせる。 <p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する内容だけでなく、自分がしていることやこれから気付かせたいと考えている内容を広げる。後悔や自責の念をもたず、伸び伸びと生活することのよさを強調する。
<p>3 役割演技の後、ポンくんの気持ちを話し合い、正直に生活するよさに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に声を掛けてもらったポンくんは、どんな気持ちだと思いますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うそはばれてしまうんだな。 ・うそはいい気持ちになれない。 ・ごめんが言えてすっきりした。 ・正直に言えばよかった。 ・うそをつかなくてもよかったんだ。 ・かっこつけなくてもいいんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演技した児童や見ていた児童が考えたことを話し合い、正直であることのよさを更に実感させ、道徳的価値についての理解を確かにする。 <p>10</p> <p>☆うそをつかず正直に生活することのよさについて多様に考え、友達に紹介しようとしていたか。(発言,表情,うなずき)</p>

終末	4 今日の学習を振り返り、よりよい生き方を考える。 ・今日の授業で感じたこと、気が付いたこと、分かったことを書きましょう。	・うそをついても気持ちよくない。 ・うそを褒められても気持ちはよくなる。 ・正直でいる方が気持ちいい。 ・そのままでいいんだ。	・授業の内容を自分事として受け止め、感想を書いている児童を取り上げて、他の児童に広げる。	5
----	--	--	--	---

5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・うそをついたりごまかしをしたりせず、ありのままの自分を素直に話して生活することの大切さについて、役割演技後の話し合いにおいて、演じた児童や見ていた児童の視点から多角的・多面的に捉え、考えを深めている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・正直で素直に伸び伸びと生活することや、うそやごまかしをせず生活しようとするに対して、自己の生活を見つめようとしている。

